

# はじめに

『第20回学生生活調査報告書』が刊行されました。今回、調査方法の大幅な見直しを行いました。第1は、これまで隔年だった学生生活調査を毎年実施することにしました。第2は、質問用紙を郵送して回答票を回収していたやり方を改め、Web上で質問・回答してもらうことにしました。第3は、学部学生、大学院学生、留学生と別々に実施していた調査を一本化しました。第4は、質問項目を毎回質問する定例的なものとその時々課題、という2本立てにしました。

調査結果の公表時期も、10月21日の創立記念日頃とし、大学の内外に「今の早大生」を紹介することにしました。また、調査のための調査に終わらせるのではなく、学生の皆さんの意見・要望等はできるだけ大学の施策に反映させ、学生サービスに資する生きた調査にしたいと考えております。

本書には、随所に、「今の早大生」を浮き彫りにする箇所が見受けられます。一例を挙げますと、早稲田というと課外活動が盛んな大学というイメージが強いと思いますが、「大学生活であなたが大切だと思うことは何ですか？」との質問に対し、「部・サークル等の活動」は意外と回答が少なく16.5%でした。これは本学の課外活動が低調というのではなく、早稲田の風潮が大きく変わってきていることを物語っています。

本書が読み物として読まれることを、そして、早大生に対する理解を深める一助となることを望んでいます。

最後になりましたが、本報告書の作成にあたって、アンケートに回答した学生のみなさんのご協力に深く感謝します。稲葉 敏夫（第2章）、太田 正孝（第4章）、大野 高裕（第1章、第6章、まとめ）、大藪 泰（第3章）、畑 恵子（第5章）の各先生には分析・執筆のご協力を賜りました。また、職員の方々にも大変お世話になりました。お礼を申し上げます。

2001年10月21日

早稲田大学学生部

学生部長 紙屋 敦之

# 調査の概要

この調査報告書は、現在の早大生像を浮き彫りにし、「読んで楽しく、分かりやすい」「学生生活をサポートする大学の政策の基礎資料」となるものです。

従来2年に1度実施されていた学生生活調査を、実施方法、質問項目、編集方法を見直し、今回から下記のとおり実施しました。IT時代にふさわしく教学支援システムを活用したアンケートにした点が、これまでとは大きく異なる点ですが、調査に協力してくれた学生もこれまでとは違うタイプの学生かもしれません。

【調査期間】2001年6月4日(月)～16日(土)の2週間

【調査方法】調査対象者にはハガキで通知(調査協力依頼ハガキは6月1日(金)に発送)。

教学支援システムを利用してアンケートを実施。

【調査対象】学部学生・大学院学生から無作為抽出した10,000人

【調査内容】学生生活全般、大学と社会との関わり、大学のサービスに関する早大生の要望など、早大生の生活実態・意識調査。質問項目は巻末に掲載。

【回答者数】941人(回答率9.41%)

【回答者内訳】

(所属箇所)

(学部)

(大学院)

所属	政治経済学部	法学部	第一文学部	第二文学部	教育学部	商学部	理工学部	社会科学部	人間科学部	政治学研究科	経済学研究科	法学研究科
(人)	103	82	129	84	117	67	94	81	52	9	10	21
(%)	10.9	8.7	13.7	8.9	12.4	7.1	10.0	8.6	5.5	1.0	1.1	2.2
	文学研究科	商学研究科	理工学研究科	教育学研究科	人間科学研究科	社会科学研究科	アジア太平洋研究科	国際情報通信研究科	日本語教育研究科	計		
	8	5	44	6	5	4	10	8	2	941		
	0.9	0.5	4.7	0.6	0.5	0.4	1.1	0.9	0.2	99.9		

(性別)

	男性	女性	計
(人)	575	366	941
(%)	61.1	38.9	100.0

(学年)

	1年	2年	3年	4年	5年以上	大学院	計
(人)	238	198	212	128	33	132	941
(%)	25.3	21.0	22.5	13.6	3.5	14.0	99.9

(文系・理系)

	文系	理系	計
(人)	781	160	941
(%)	83.0	17.0	100.0

(入試形態)

	一般入試	推薦入学	付属・系属校進学	計
(人)	780	127	34	941
(%)	82.9	13.5	3.6	100.0

(キャンパス別)

	西早稲田	戸山	大久保	所沢	計
(人)	525	221	138	57	941
(%)	55.8	23.5	14.7	6.1	100.1

小数点以下2桁を四捨五入して、小数点以下1桁まで求めているので必ずしも合計が100.0%になるとは限らない。